

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいた、法人主催の合同研修会が年4回実施され職員の意識改革や日頃のケアの質の向上に繋がられています。	合同研修や会議、日々のミーティングで、理念について話し合いの場を持ち、職員の意識改革とケアや質の向上に繋がっている。職員の一人ひとりが「人の命の大切さ」を真剣に考え日々の業務に当たっている。利用者や家族には申し込み時や契約時に法人の理念の説明をしている。理念にそぐわない言動は殆どみられないが、不適切な場合には管理者が助言したり現場の課題として全員で解決している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	交流する機会をもち自治会の協力を得ながら幼稚園児との交流や行事訪問もあり徐々に地域の方と交流する機会を作っています。ボランティアを招いてマジックショーなども行い楽しみを持ってるように努めています。	自治会に加入し会費を納めている。今年は近くの城址の関係で寄付も納めた。6月、12月には幼稚園から招待を受け合同で歌や紙芝居を一緒に楽しみました。9月には系列病院祭で行われた合唱に5名が参加し、また、地区の敬老祭にも2名の利用者が参加し地域との交流を深めている。地区のお祭りには子供神輿や獅子舞の来訪があり、ホーム内外で地域との交流が盛んに行われている。地域包括支援センター主催の介護教室に参加し歌や体操も楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学希望者や包括支援センターの紹介者、地域の皆さんへ事業所の生活状況を紹介する機会を設け認知症への理解していただけるようになっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議の内容について職員、家族会の際ご家族へ報告をして改善の取り組みなどを行っています。	運営推進会議は年間6回計画され奇数月の月曜日あるいは火曜日の午後4時から開催している。ホームからの報告内容は多岐にわたり、利用状況や利用者の身体状況の変化、介護・医療面と環境面などから観察しまとめた内容、ヒアリング報告、職種毎の職員数の報告、行事、ボランティアの活動状況等を報告している。出席者からの意見や助言は運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者や包括支援センターへ助言を求めたり適切なアドバイスを貰いケア向上に努めています。閉ざされた環境にならないように安心相談員の方も月1回訪問され利用者と一緒に過ごして頂いています。	市の調査員がホームにて認定調査を行っており今年度は約半分の方が対象であった。介護認定更新や区分変更申請も状態説明を家族に行いながら進めている。家族や住民代表からは安心相談員についての質問が寄せられ、担当者より役割と必要性の説明がされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関を解放し安全に心配りしつつ利用者が自由に行動出来るようにしています。話し合いを持ち抑制しない介護に努めています。	玄関や事務所には「身体拘束廃止宣言」が掲げられ、玄関は施錠されず自由に出入りができる環境になっている。入居まもない方で自宅で使用していたセンサーマットを一時的に使用する方はいたが、現在は使用していない。職員間で話し合いの場を持ち拘束や抑制をしない介護を目指し実践している。やむを得ず使用する場合には家族から説明と同意をいただき使用している。身体拘束などの研修会は法人の地域別に計画し全員が参加し易い工夫をしている。	

グループホームこもれ陽栗田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員は日常の中で会議を設け虐待について理解を深め見逃さないようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中に成年後見制度や自立支援制度を利用されています。管理者、職員は担当者と連携を取りそれぞれの支援方法で実施しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約内容、重要事項の内容を説明し、理解をいただいています。又、報酬改定、業務内容の変更などについても家族へ説明し納得して頂けるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族へ新聞を発行して日常の様子をお知らせしています。家族会や行事の交流会などでも話易い雰囲気をつくり、些細な事柄も電話や手紙などで相談しています。	殆どの利用者が口頭で訴えることができるが、中には感情を上手く表出できない方もおり、表情や態度から利用者の思いを汲み取ることもある。家族の来訪は多く、訪問日や時間は様々だが自然と足を運んでいただいているため、日々の様子や相談は直接話す機会が多くなっている。遠方或多忙な家族とは電話や手紙でやり取りしている。今年もホームの行事や暮らしの様子を掲載した「こもれ陽新聞」を2回発行し、ホームの様子をお知らせした。ホーム主催の敬老会には家族を招いて手作りの昼食を振舞い、楽しいひと時を過ごしていただいた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員と同じ立場に立ち日常会話、提案、意見など心掛けています。全体会議の中でも業務の見直しなど改善して行ける様に傾聴するように努めています。	全体会議は2ヶ月に1回のペースで行われ、業務を見直し改善できるよう話し合っている。職員全員が自分の考えや意見を活発に出し合い日々の業務に反映させている。ユニット毎のミーティングは短時間で毎日行われ、主に利用者の状態や状況に合わせた対応方法について話し合うことが多い。管理者は職員の気づきやアイデアを取り入れ業務に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、事業所の管理者と共に職員の勤務状況を把握し、職員が働きやすい環境で業務を行えるように資格取得や研修参加などでスキルアップ出来る様に支援しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員は年3回の法人研修へ受講し業務の中で活かしています。外部研修にも参加し技能、知識の取得に努めています。得た知識を互いに情報交換しています。		

グループホームこもれ陽栗田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は同地域の交流会及び研修に参加しています。今後、職員もその機会を設け勉強会などへ参加して事業所の質の向上に努めます。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族を交えて施設見学を勧め日常の様子を見て頂くようにしています。職員は相談時、心身の状況を把握して、その思いに傾聴し不安な気持ち、要望などを受け止められる関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の心情や、御苦勞をその立場になって傾聴、理解をし、事業所がどのような事ができるか親身になって検討をし最善の対応に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、ご本人の希望や生活の状況をお聴きし利用に繋がる方かを確認しています。他、サービスの利用状況もお聴きし、今、必要とされるサービスへ繋げています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者と同等の立場になり一方的な関係でなく共に支え合い、認め合う関係を築ける暮らしの継続を支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日ごろから家族の訪問が多くあり、訪問時は食事介助、散歩や外出なども願っています。密な情報交換を行い、お仕着せにならないように家族の思いを受け止め、利用者が安心して暮らせるようにより良い関係が築けるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が途切れないように、知人の訪問や出かけたり交流をしています。県外出身者は家族の協力あり外泊などされ交流されています。近隣の方も馴れ親しんだ場所へ出かけてその関係が保てるように支援しています。	知人や友人、近所の方の来訪があり、電話がかかってくる方もいる。県外出身の方が家族と3泊4日の外泊でお墓参りや同級会に参加した例もある。家族の協力で助けられ馴染みの関係が途切れることなく保たれている。遠方の家族が実家に帰省するように気軽にホームに立ち寄り水入らずの時間を過ごしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の人格や個性を尊重し、出来ている事、楽しめる事などを見極め、利用者同士の関係が円滑に行くように職員が情報の共有や連携に努めています。		

グループホームこもれ陽栗田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新しい生活環境になっても必要に応じた支援内容、状況等の情報提供を行っています。担当者と近況報告などの交流もしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で何を感じているかその人の表情や、想いをうけ止め推測して気持ちに寄り添えるように支援しています。	毎日の生活の中で感じとれる表情やしぐさ、家族からの情報を参考に推測し共感受容している。具体的には「コンビニに行きたい」、「冬物を買に行きたい」、「善光寺に行きたい」などの希望を受け止め、職員間で話し合い思いを実現している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今に至るまでの生活歴や好む事、やりたい事、など意欲が持てる事などに目を向け馴染みのある暮らしが継続できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日変わる心理状態の変化を記録し、検討会議などの中でケアの見直しが必要かを確認しています。出来ている事へ注目しその持つ力を継続できるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日ごろから本人や家族の意向などをお聞きしながら定期的、あるいは状態の変化があった時など担当職員とカンファレンス会議を行い介護計画を作成しています。	利用者の日々の様子を一番よく見ている担当者がアセスメントを作成し、定期的または変化のあった時にはサービス担当者会議やケア会議を開催し計画に反映できるようにしている。介護計画は状態に応じたり状況を見ながら家族とも相談し、方向性を説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の中で気づきや、出来事を記録し職員がその情報を共有し再アセスメントを行い評価、見直しをしています。ひもときシートの研修に参加しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護教室へ参加したり協力病院の音楽祭へ参加して歌や楽器の演奏などして楽しんでいます。他、デイサービスを利用している方もおり柔軟に対応できるようにしています。		

グループホームこもれ陽栗田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議、公共機関や社協の情報紙、包括支援センターの紹介など情報収集に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力病院やかかりつけ医への受診支援を行い、それぞれの機関と職員は連携をとり適切に医療が受けられるようにしています。家族受診の場合は情報交換をし体調の把握に努めています。	本人や家族の希望する医療機関に受診ができるように配慮している。特別な場合は家族に相談し医療機関を選択している。受診の同行は原則看護師で、日々の記録を元に心身の状況を報告している。家族の付き添いもあり、受診後は情報提供をお願いし共有化を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており日常生活の健康管理や心身状況の変化などを医療機関と連携しおり、職員からの相談、助言など行いについても適切な指示を出し連携を取っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院があった場合は、職員がお見舞いに伺い体調や状況を医療機関と連携を持ちながら早期退院に繋げています。家族との情報交換に努め長期化しないように支援をしています。退院後のケア方法なども密に情報収集しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化に伴う指針等について事業所の説明を行います。家族から終末期についての相談もあり、ご本人の心身状況など見極めながら話し合いを持ち取り組んでいます。	重度化に関する指針があり、契約時に事前説明を行っている。最後の看取りを希望している家族もいるが、状態に応じて最良の方法を検討し進めている。経済的理由や状況に合わせて特養の申し込みや他の施設への申し込みをされている家族、利用者もおおり、ホームとしてもスムーズに移行できるように関係者と連携をとっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師が指導し緊急時に備えています。AEDが設置されており日頃から緊急時へ備えています。救急法の講習会も予定しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施し誘導方法、消火方法などの確認をしています。併設の事業所とも連携をとり避難方法や協力体制について確認しています。地域の方々とは運営推進会議の中で協力体制について話し合いを行っています。	同じ法人の隣接事業所と合同で消防署の指導の下、通報から避難誘導、消火器の使い方を訓練している。11月の訓練は予告をせず、2階の車椅子の利用者を安全に避難させる方法の一つとして人海戦術で本番さながらの訓練を行った。運営推進会議では防災訓練の様子や課題を報告し意見交換を行った。自家発電や反射式ストーブがあり、水や食料品も3日分の備蓄がある。備蓄量を多くしたいとの意向もあり順次進めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人理念にあるご本人の尊厳のある暮らしを尊重し会議や研修を行いケアの中で実践出来る様にしています。プライバシーへの配慮や守秘義務が常に守れる様に職員へ伝えています。	職員は「接遇」の研修を受け実践に活かしている。今年度は職員の心の健康を維持する取り組みとしてメンタルケア研修も取り入れており、職員がゆとりをもって利用者に接することができるようにしている。利用者の苗字に「さん」をつけて親しみと敬意をもって呼んでいる。同姓介護を基本とするが状況に応じて異性が関わることもあり、事前の確認を徹底し、声を掛けながら関わっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、ご本人の些細な声にも耳を傾け聞き漏らす事が無いようにしています。自己決定できるように待つようにもしています。意思表示が難しい方でも表情や反応を読みとりコミュニケーションに心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の意思確認や言葉を受け留め、職員の都合や押しつけに成らないように、寄り添い生活が出来る支援に心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節を感じられる装いへ声掛けを行いその時に見合った服装を職員と一緒に選んでいます。意思表示の難しい方は目や体の動き、発する言葉などで汲み取り選んでいます、又、家族へも好みの物などをお願いしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の希望や好みなどを聴き四季の食材を取り入れた食事作りをしています。ご本人が出来ることをして職員と協力しながら食卓を囲み楽しめるようにしています。	好みや希望を聞いたり旬の食材を取り入れる献立を作成し、食事が楽しみなものになるように工夫をしている。皆で栽培した夏野菜も食卓にのり、採れたて野菜の味を楽しんでいる。嚥下機能の落ちた方には状態に応じ、食形態を変えて食べれる工夫をしている。ご家族からの差し入れ(野菜、菓子、果物等)も多く、料理の食材として利用させていただくこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が野菜中心の栄養バランスを考えた献立作りをしています。食物繊維が多く含む食品を摂り便秘予防や、身体状況に併せた食事形態を行い適切な栄養が摂れるように支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力歯科医師の受診や適切な助言を受けながら本人の習慣を踏まえた上で、歯磨きや嗽を行っています。個人的に口腔ケア歯科衛生士によるリハビリを受けている方もいます。		

グループホームこもれ陽栗田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の身体状況に応じて紙オムツ、紙パンツから布パンツに変更した方がおります。職員間では、日々カンファレンスを実施し見直しをしています。失禁などで悩んでいる方へは羞恥心に配慮しさりげなく支援が出来るようにしています。	一人ひとりの排泄状況、排泄パターンを把握するために情報収集と分析を行いトイレでの排泄が行えるよう支援している。状態に応じて随時話し合い最良の排泄方法をみつけている。全体の約7割の方が何らかの介助を必要としているが職員は自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食事に心掛け、乳製品、食物繊維の豊富な食品を摂るようにして予防に心掛けています。排泄表を記録し排便状況の把握し改善しにくい方は主治医と相談の上、下剤を服用しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なるべくご本人が希望する時間や曜日に添えるようにしています。浴用剤やゆず湯など季節を感じることも心掛けています。入浴を好まない方はタイミングやその気になるまで待ち入浴し易い支援をしています。	安全の確保ができる限り、本人の希望する日と時間、回数を尊重し楽しめるように配慮している。リフト浴はないが、二人介助で湯船に浸かっただき温まっていたら入浴を拒む利用者には時間帯を変えたり、職員の人選をしながら週1~2回は入れるようにしている。ゆず湯や入浴剤を使用し変化をつけて季節を感じ楽しんでいただいている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体調を踏まえ、その日の状況により活動を促したり、午睡などを行い生活のリズムを整えるようにしています。眠剤使用者は睡眠状況を看護師が把握し主治医へ相談しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が主に薬の管理を行い、受診後処方された薬について職員間で申し送りや記録をし、症状の変化などがあれば看護へ再報告し服薬方法を変更しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を活かし食事作り、編み物、縫物、塗り絵など出来ることへ目を向け張り合いの持てる暮らしの支援をしています。希望があればビールなどの嗜好品を嗜んでいる方もおられます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望をお聞きしたりしつつ季節に応じて近隣への散策、外食、買い物などへの支援をしています。家族の協力を得て連携をとり自宅や遠方へ外泊されている方もいます。	個々の希望に合わせて戸外へ出かけている。行き先は状態に合わせて移動に負担の少ない近場を選び、春には古戦場で花見、秋には公園の紅葉狩りに出かけ季節を感じながら気分転換を図っている。日常的には近所の公園に散歩をしたり、日用品の買出しに職員と出かけている。歩行状態の良い方は他の方の買い物を手伝い、週に2~3回の外出があるという。	

グループホームこもれ陽栗田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は家族と相談の上ご本人が受診代や日用品など支払っている方や、社会福祉協議会の支援制度を活用しご自分の通帳の把握を毎月され確認されています。また日常の中で購入時はご自分で支払いもされています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持ち家族と通話している方、家族、知人から架かってきた時、架けたい時は自室で子機を使用してプライバシーに配慮しています。本人宛の手紙なども取り次ぎお渡ししています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1F,2Fは雰囲気は違いますが、室内は落ち着いた色合いで女性らしさのある壁紙で装飾されています。整理整頓にも心掛け季節感が感じられる環境作りに配慮しています。	自然光の入る明るいキッチンと食堂兼リビングは多目的に利用され常に人の集まる場所となっている。居室は広い廊下を挟んで一列に並んでいる。全体の色調は白と茶を基本としたモダンで落ち着いた雰囲気、整理整頓がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた空間の中でソファやテーブルを置き、趣味活動や家事仕事などご本人が出来る事を職員と一緒にしています。またデッキや前庭で日光浴やお茶飲みなど思い思いに好きな所で楽しめる工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時から、本人、家族が相談し馴染んだ家具、家財など持ち込み配置している方や担当職員が係わりを持ちながら好みの物を飾りその人らしく暮らせる工夫をしています。	廊下に一列に並ぶ引き戸を開けると長年使い慣れ親しんだ家具などが置かれ、その人らしい暮らしが繰り広げられている。フローリングにベットの方、布団を敷かれている方など、過去の生活習慣や希望に合わせて自由に選べ居心地よく過ごせるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体状況に応じて全職員が話し合いを行い、必要に応じたた用具や器具などを検討し、家族へ相談、協力を得ながら安全に生活できる環境作りをしています。		